

2016年度
小田原市立病院 第7回 市民公開講座

化学療法における薬剤師の役割

薬剤科 杉崎涼子

抗がん剤治療ときいて

- 不安...



- 副作用は？



- 現在発売されている抗がん剤と呼ばれる薬剤は100種類以上！

- それを単独、または併用で使っていきます



どのように選択される？

- 各がん種にはガイドラインという共通のガイドラインがあります。
- 現在の状態において効果が最もえられると思うもの
- 腫瘍の特性を検査し効果のある薬剤を選択する
- なかには効果が同等であるという結果のものもあり、生活スタイルに応じて選択されることもある。

薬剤によって副作用も様々

- 骨髄抑制
- 悪心、嘔吐
- 脱毛
- 下痢、便秘
- 手足のしびれ
- 皮膚障害 など



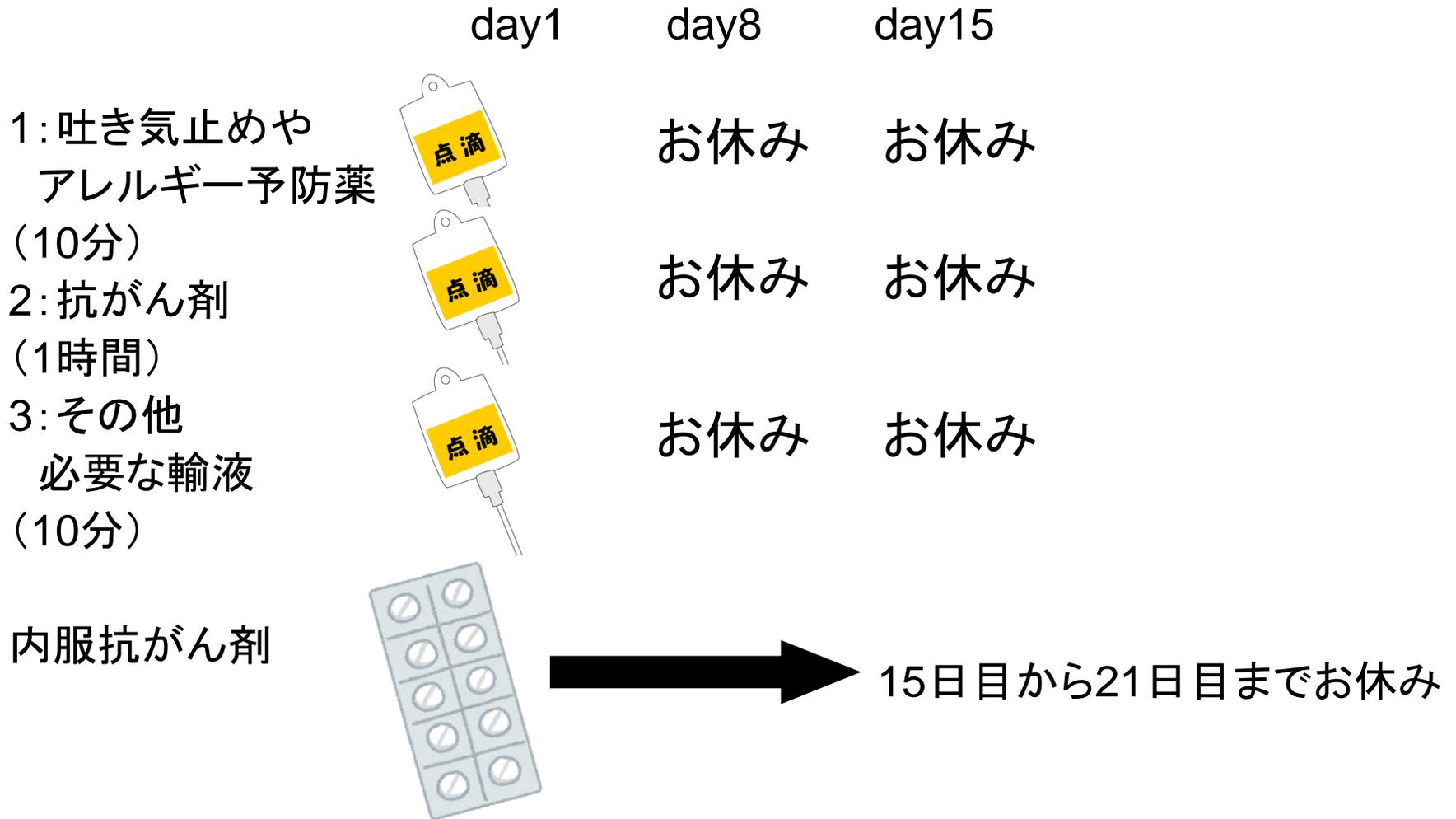
これらの副作用は薬剤によって発現する頻度が異なり、個人差がとても大きなものです

治療のスケジュール、レジメンとは？

- 抗がん剤の種類に応じて吐き気止めなどの支持薬、輸液、投与時間なども入った時系列な投与計画のことです
- それぞれの薬剤やがん種により、同じ薬剤でも標準的な投与量が異なる
- 医師のみならず、薬剤師、看護師など含め協議し、病院全体で承認される
- 適正に運用されるため管理、確認していくことは薬剤師の大きな役割

例えば...3週ごとの治療です。

1日目に点滴をし、内服薬は2週飲んで1週お休み



化学療法の前に確認させてもらうこと

- 他の病院で処方されている薬はないですか？
- 健康食品などとっていますか？
- 虫歯はないですか？
- 手足の皮膚の状態はよいですか？
- 痛みはないですか？
- ご自身で治療のスケジュールは理解していますか？



知ることの大切さ

化学療法は医師、看護師、薬剤師などが協力して行っています。治療方針を決定するため正確な情報が主治医より説明され、看護師や薬剤師など多くのスタッフが理解や不安に対してサポートしていきます。その治療法を知ることには副作用に対するこころ構えや早期発見につながります。何か不安がありましたら気兼ねなくスタッフに相談してください。